学習院大学

「東日本大震災―地域・メディア・生命」

【 法学部　政治学科　教授　　遠藤薫 】

研究者紹介

東京大学教養学部基礎科学科卒業⇒東京工業大学大学院博士課程修了（社会学，博士（学術））
専門領域：社会システム論・社会情報学（メディア社会学）・計算社会科学
日本学術会議第一部会員社会学委員長／社会学系コンソーシアム理事長／横幹連合前副会長
【キーワード ： 東日本大震災、原発事故、メディア、社会関係資本、地域史、死生観】

本研究の目的・内容

東日本大震災からすでに6年半が経過した。しかし、復興は思うようには進んでいない。大震災直後、「絆」ということがしばしば語られた。人と人との「絆」を大切にすることにより、過酷な現実に協力して立ち向かい、被災した方々の社会的孤立をふせぎ、被災地域の迅速な復興を図ろうという言説であった。ただし、「絆」の強調が、かえって分断を引き起こすという指摘もある。

社会の「絆」は、社会学では、近年注目を集めている「社会関係資本」という概念に対応する。アメリカの社会学者R.パットナムによれば、「社会関係資本が指し示しているのは個人間のつながり、すなわち社会的ネットワーク、およびそこから生じる互酬性と信頼性の規範である」。そこで改めて現状を考えるならば、復興と言うよりも被災地からの人口流出が目立ち、社会関係資本による地域の再建よりも、むしろコミュニティ自体の存立が危惧されている。

本研究では、「社会関係資本」概念をキーとして、災害復興および地域の人口問題を考察する。

本研究の新規性・優位性、成果の応用・活用

本研究では、地域再興と社会関係資本の問題を、単に「現状」からだけ分析するのではなく、メディアによって語られた物語（ドキュメンタリー）、地域のローカルな歴史、地域に埋め込まれた死生観などを含めた総体としての「地域宇宙」という観点からとらえることにより、「豊潤な地域の未来」を再構築することをめざす。

主な研究業績

【著作】・『大震災後の社会学』（編，講談社現代新書，2011年）
・『メディアは大震災・原発事故をどう語ったか』（東京電機大学出版会，2012年）、他論文多数
【招待講演】・東日本大震災後をどう生きるか、日本キャリアデザイン学会研究大会基調講演、2012年、他多数
【外部資金】・基盤研究（B）2012年度～2014年度、東日本大震災に対する価値観に関する実証的研究、代表
・基盤研究（C）2016年度～2018年度、東日本大震災における社会関係資本を活用した復興政策、代表　　他5件

応対できる研究・企業等への希望

1.共同研究　2.受託研究/評価試験　3.学術指導/コンサルティング　4.講演/出張講義
5.寄付金受入　6. 報道等の取材/出演　7. その他（　　）

研究者より：
公式サイト　http://kaoruendo.comもご参照ください。

【お問い合わせ】
学習院大学　研究支援センター　〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1
TEL：03-5992-1228　Mail：Ken9-off@gakushuin.ac.jp
URL：http://www.gakushuin.ac.jp/univ/research/index.html

学習院大学 広報大使
さくまサン

©'12,'18 GAKUSHUIN